

『看護における K(危険)Y(予知)T(トレーニング)』全3巻

医療安全教育のみならず、 実習前オリエンテーションなど にも活用できる映像教材



監修：佐藤みつ子，指導：川村真由美，横山正江，加治美幸／定価：各巻 25,000 円＋税／
3巻セット 75,000 円＋税／発行：株式会社ビデオ・パック・ニッポン／TEL：03-3405-3173

「KYT(危険予知トレーニング)」はリスク感性を養う画期的な方略である。しかし、事例の選定や臨場感、患者の状況、看護師の判断など、教材作成に困難を極める。さらに、危険予知に必要な「状況の変化」「複雑な背景」の演出には動き、空間、時間の要素を盛り込む必要がある。『看護における K(危険)Y(予知)T(トレーニング)』シリーズ3巻は、精選された看護場面と根拠に基づく医療安全知識で KYT を教材化したものである。

第1巻「KYTの基礎知識」には医療現場に潜む危険要素に対する「危険予知センス」を高めることが安全な看護実践には重要としたうえで、KYTの定義と手法、実施場面が紹介されている。KYTの代表的な手法である「KYT基礎4ラウンド法」を実際に看護師間で動画事例を用いて展開している。同じ映像を見ている看護師1人ひとりの危険予知の視点の違い、確かな実践に裏付けられた「危険予知センス」、だけでなく、討議に際して「(要因)～なので(事故)～になる」と危険要因を具体的に表現し、対策は「危険回避行動として～をする」という、KYTの実践ナビゲーションになる。

第2巻「KYTの実践【ヒヤリハット事例Ⅰ】」と第3巻「KYTの実践【ヒヤリハット事例Ⅱ】」では「KYT基礎4ラウンド法」に沿って、①解説付きの患者の様子と看護場面、②潜んでいる危険、③危険確認、④危険回避対策、⑤危険予防のポイントで構成さ

れている。各場面で①～⑤それぞれで映像が静止し、事故が起こる場面は時間軸を巻き戻しても見せる仕組みになっている。動画による臨場感だけでなく、日常見落としがちな空間や時間の経過、登場人物の動きにも関心を向けることができ、医療事故防止の要因である患者、医療従事者、状況の3つの要因の背景をとらえることができる。取り上げられた看護場面は第2巻では看護基礎教育での看護体験、第3巻では卒後教育に連動する形で構成されている。佐藤みつ子先生監修により、常に危険を予知しながら看護実践ができる看護師の育成を視野に入れ、科学的根拠に基づく看護技術を真摯な態度で確実に修得することがいかに大切であるか気づくことができる。

教科書に沿って手順で覚える学習は成功事例の暗記である。しかし、このDVDにある「このようになっていないならどうなるか」の答えは多様である。状況から考えられるさまざまな結果を思考し、学習者1人ひとりの能力や体験が反映される。

「反転学習」教材として、「協同学習」「主体的学習」教材として医療安全教育の科目だけでなく、基礎看護技術、実習前オリエンテーション、また最終学年においては KYT 教材を仲間や後輩に向けて作成する参考としてなど、さまざまな活用法が期待できる。